

今後の審議案件について（安威川ダム事業の今後の予定）

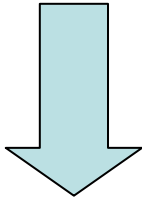
（事業の経緯～建設事業評価委員会での審議状況など～）

安威川ダム：淀川水系安威川の茨木市北部に建設する多目的ダム（治水・利水） 右図参照

- ・ S 5 1 年度 事業採択
- ・ H 1 0 年度 再評価
（意見具申）「事業継続」
- ・ H 1 5 年度 再々評価
（意見具申）「条件付き事業継続」
条件：利水機能の精査など基本的課題が残されており、府において課題の再精査を行い、結果報告を受け委員会として審議する。それまでは本体工事に着手せず、調査検討を継続する。なお、用地買収や代替宅地等の整備など生活再建事業を進めていくことは認める。
- ・ H 1 7 年度 大阪府水源計画変更（安威川ダムの利水確保量：7万 m^3 /日 1万 m^3 /日）
- ・ H 1 7 年度 再々評価
（意見具申）「事業継続」（ただし、ダム諸元の精査を進め、環境への負荷にも配慮しつつ積極的なコスト縮減に努めること。）
- ・ H 1 9 年度 神崎川ブロック河川整備計画策定
- ・ H 1 9 年度 安威川ダム全体計画変更認可（ダム高 82.5m 76.5m）
- ・ H 2 0 年度 財政再建プログラム（案）で点検
（点検結果）ダムとしての事業継続妥当、財政状況に鑑みH21年度本体着工は見送り

（現状：H20年度末進捗状況等）

用地買収率：99%、付替道路工事：83%、総事業費：約1,370億円



H21年度水需要予測の見直し検討

必要な水源量（日量）（前回）231万 m^3 （今回）187万 m^3

淀川水系からの既得水源量（222万 m^3 ）を大きく下回る。

安威川ダムに係る府の戦略本部会議（H21.8.31）における議論

水需要予測の見直しにより、安威川ダムから利水撤退

安威川ダムは治水ダムとして継続する

地元との約束と今後の府民全体の利益とのバランスを踏まえ検討

ダム事業を進める場合の具体的な案は、事業の効果、スケジュール、費用等について次の2つの対応案とする。

ダム規模を現状維持し（76.5m）、事業を進める

ダム規模を縮小し（75.0m）、事業を進める

これらを踏まえ、建設事業評価委員会及び河川整備委員会の専門的意見を聞き総合的に判断する。

（両委員会での主な論点）

建設事業評価委員会...事業継続の妥当性（ダム高の現状維持案と縮小案の比較を含む）

河川整備委員会...多目的ダムから治水ダムへの計画変更、水道容量についての意見

安威川ダム

位 置 図



流域一覧図



凡 例	
	ダムサイト
	集水区域
	湛水区域
	洪水氾濫防止区域
	不特定用水補給区域
	都市用水給水区域